

プロパン・ブタンニュース

平成 27 年 2 月 2 日

申部

◇名古屋支局◇
名古屋市中村区1-38-1
新栄ビル5階
電話(566)2290
FAX(566)2291

軽油とLPガスを混燃して走る次世代型トラック「デュアル・フューエル・トラック」の展示セミナーが1月26日、名古屋市の邦和

LPG・軽油混燃トラック

市場投入へ意欲

だるまエナジー 開発状況を説明
城東自動車工場



LPガス混燃装置を組み込んだ三菱キャンター。物流業界の課題解決へ早期の市場投入を目指す



鈴木啓一氏



古田洋二氏

デュアル・フューエルに広く普及している。トラックは、ディーゼルエンジンにLPガスや天然ガスを添加する装置を組み込んだ低燃費車。海外では20年ほど前から利用され、大型車を中心

セミナープラザ、シナケン中部支店で開かれた。だるまエナジー（本社・東京、古田洋二社長）と城東自動車工場（本社・東京、鈴木啓一社長）が「平成26年度経済産業省石油ガス販売事業者構造改善支援事業」の補助を受け開発を進めているもので、両社は災害対策や燃料コスト低減に役立つ車として物流や交通機関への導入を目指す。

試験走行記録が残るのみとなっている。開発中の実験車両には三菱ふそう・キャンターを採用。ディーゼル微粒子捕集フィルター（DPF）や排気再循環（EGR）システム、可変ノズルターボ（VGT）などを備える最新鋭のディーゼルトラックに、世界標準の低燃費技術を応用した新システムを搭載し、国内トラック市場に新風を吹き込む。

軽油とLPガスの混合比率は、従来の同形式車種の15〜20%を大きく上回る50%程度。軽油のみの利用も可能だが、LPガスと混燃した場合、燃費を15%程度削減できるという。航続距離もほぼ2倍に伸びる。商品化の時期は未定だが、より高効率な燃焼方式を探りつつ早期の市場投入を目指す考え。車両の実証と並行し、混ざる燃料を天然ガスに置き換えた車両の開発も視野に入れる。

古田社長は「トラックユーザーにとって、燃費削減は大きな課題。新たな課題解決策の一つとしてLPガスと軽油の混燃システムを提案したい。システムが広く知られるようになれば、新規LPガス需要の開拓にもつながる。ガスで走る車はガス燃焼機関という意識で、業界全体を巻き込んだGV（ガスビークルライン）を形成したい」と意欲を示す。鈴木社長は「商品化にはまだ時間がかかりそうだが、既存の軽油車並みの信頼性を持ちながら、経済性に優れる車として自信を持って市販に持っていけそうだ。排気フィルターをそのまま使えるなど使い勝手も良い。実証を通じ、もっと燃料代を下げられる運転方式を探り、2〜3年で投資回収できる価格帯での発売を目指す」と力を込める。